

新型コロナウイルス対策による臨時休業(休校措置)に関するアンケート

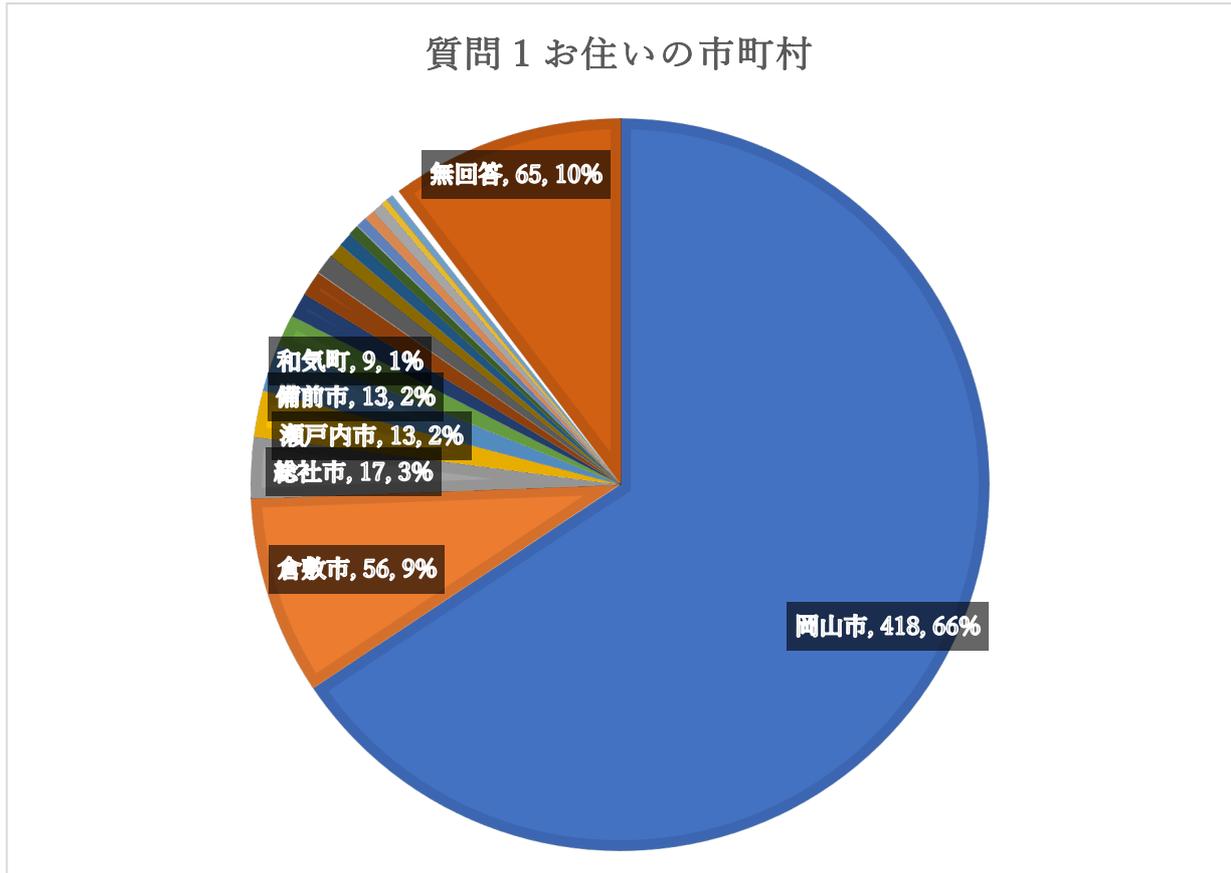
集計結果まとめ

実施日:2020年4月24日~26日 | 有効回答数:637件

実施方法:GoogleのアンケートフォームをFacebook・ML・Lineで周知

※明朝体の記述は実施者による考察でゴシック体の記述は回答からの抜粋です。

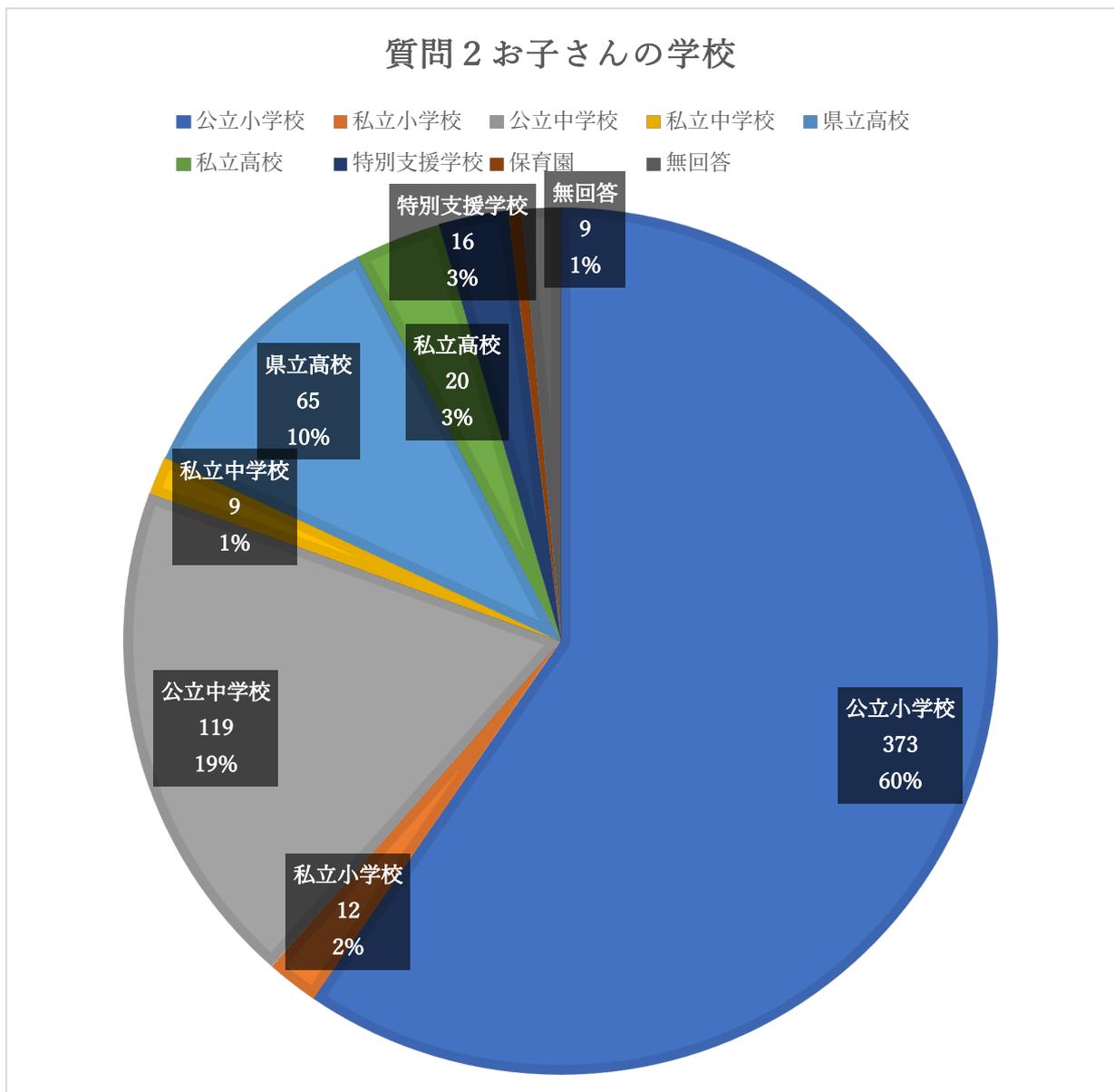
1. お住いの市町村



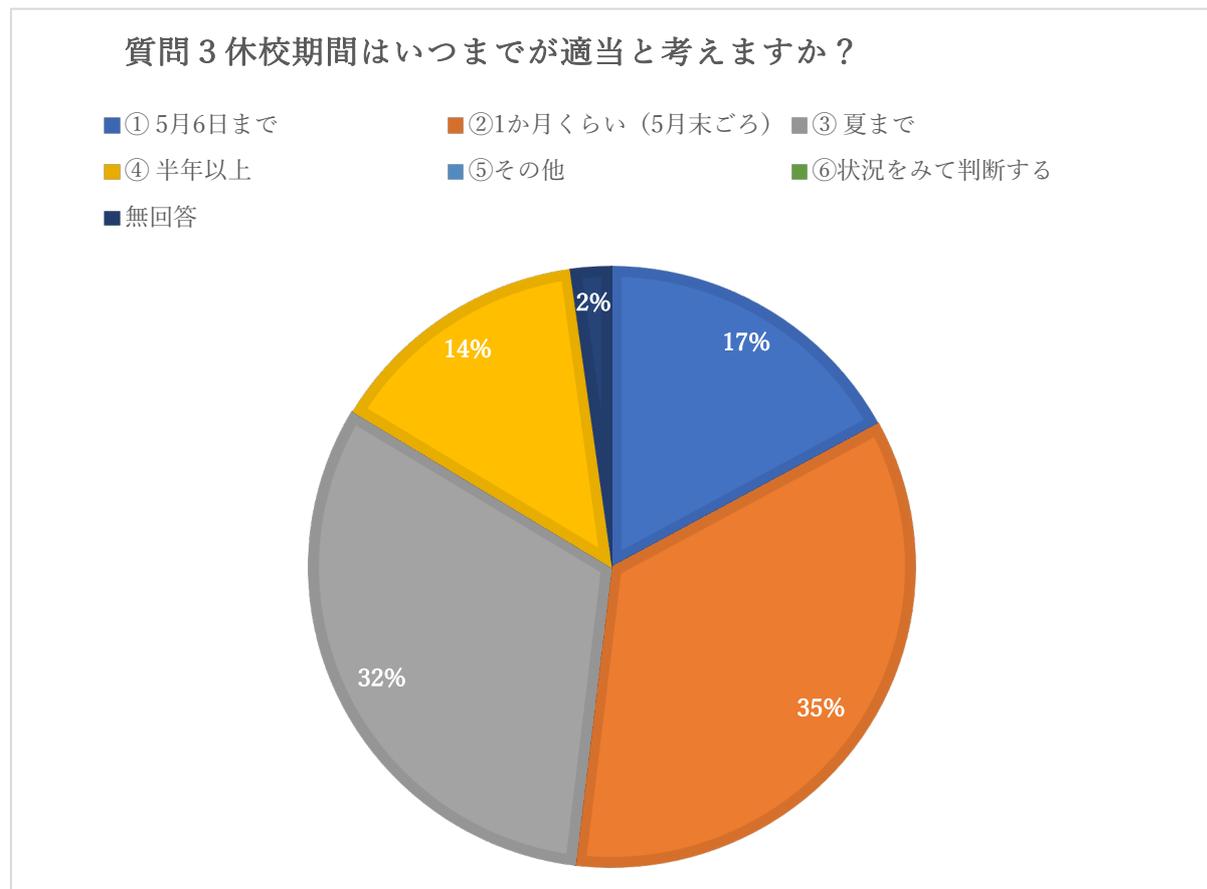
岡山市	倉敷市	総社市	瀬戸内市	備前市	和気町	玉野市	吉備中央町	赤磐市	井原市
418	56	17	13	13	9	7	7	6	4

笠岡市	高梁市	津山市	浅口市	鏡野町	新見市	里庄町	早島町	真庭市	無回答
4	3	3	3	3	2	2	1	1	65

2. お子さんの学校



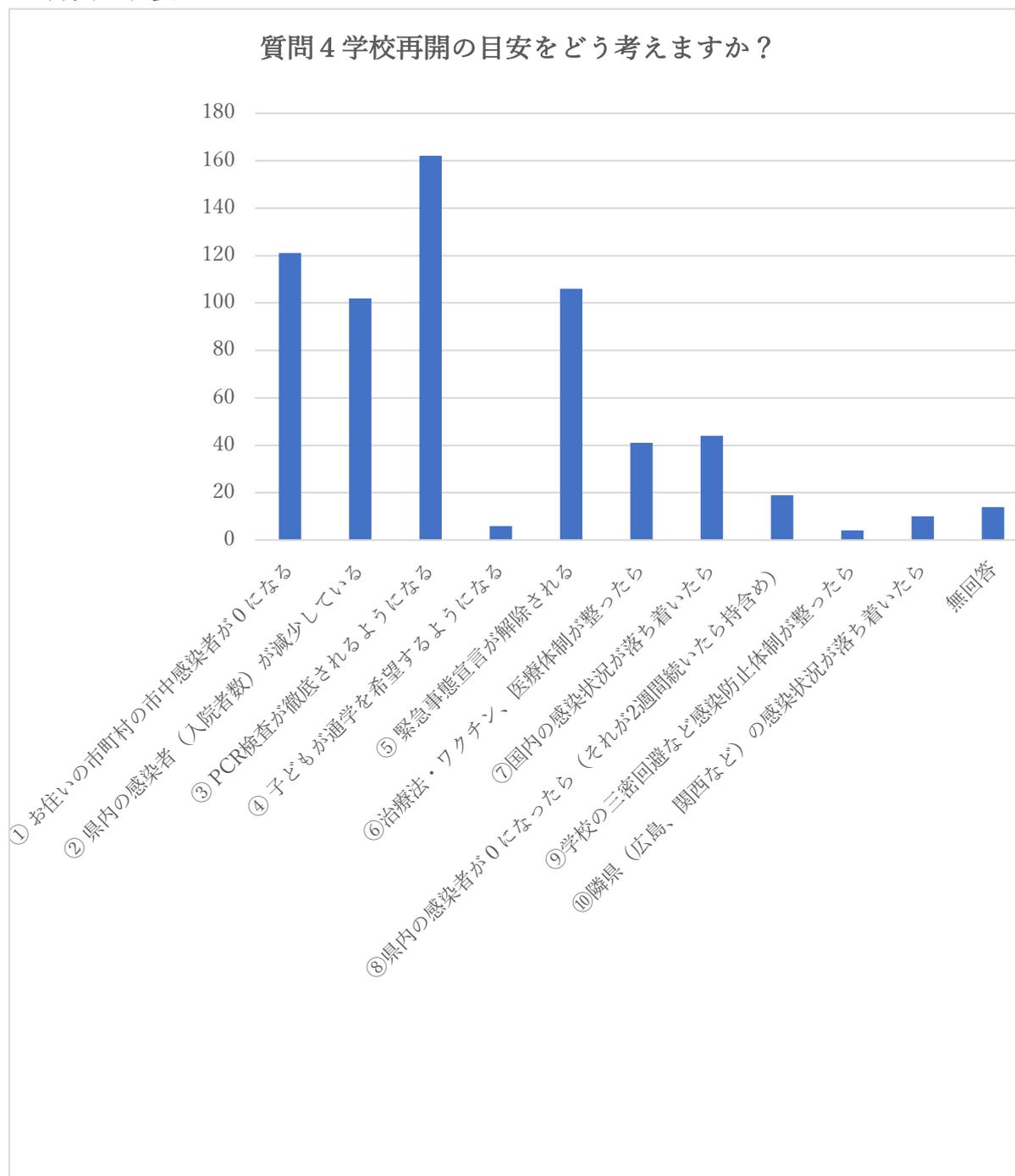
3. 休校期間について



「5月末まで」、または「夏まで」休校とするのが適当と答える方が多い。

- ・休校が長期になる場合も想定されるので、早めに通常の年間学習計画を組み換えて対応してほしい。
- ・中3と高3の生徒については、受験についての不安が募っている。今後休校期間が長くなった場合に備えて、来春の入試への配慮をしてほしい。大学入試については、国へ要望してほしい。
- ・外国のように9月始業にしてもよいのではないか。
- ・夏休みを使って授業を行う場合、給食センターの冷房設備がなく、(暑すぎて)給食提供が難しい。

4. 再開の目安



「PCR 検査の徹底」と答える方が最も多く、現在は検査数が少なく、軽症や無症状の感染者が市中にどれ位いるか分からないことが不安の要素になっています。また自由記述で治療方法が整っていないことを挙げる方も多く、万が一感染した場合に子どもや家族に命の危険があることが、その他の答えにも反映されていると思われます。

またその背景として、学校生活について次のような懸念が回答に示されています。

【学校環境の感染の危険性】

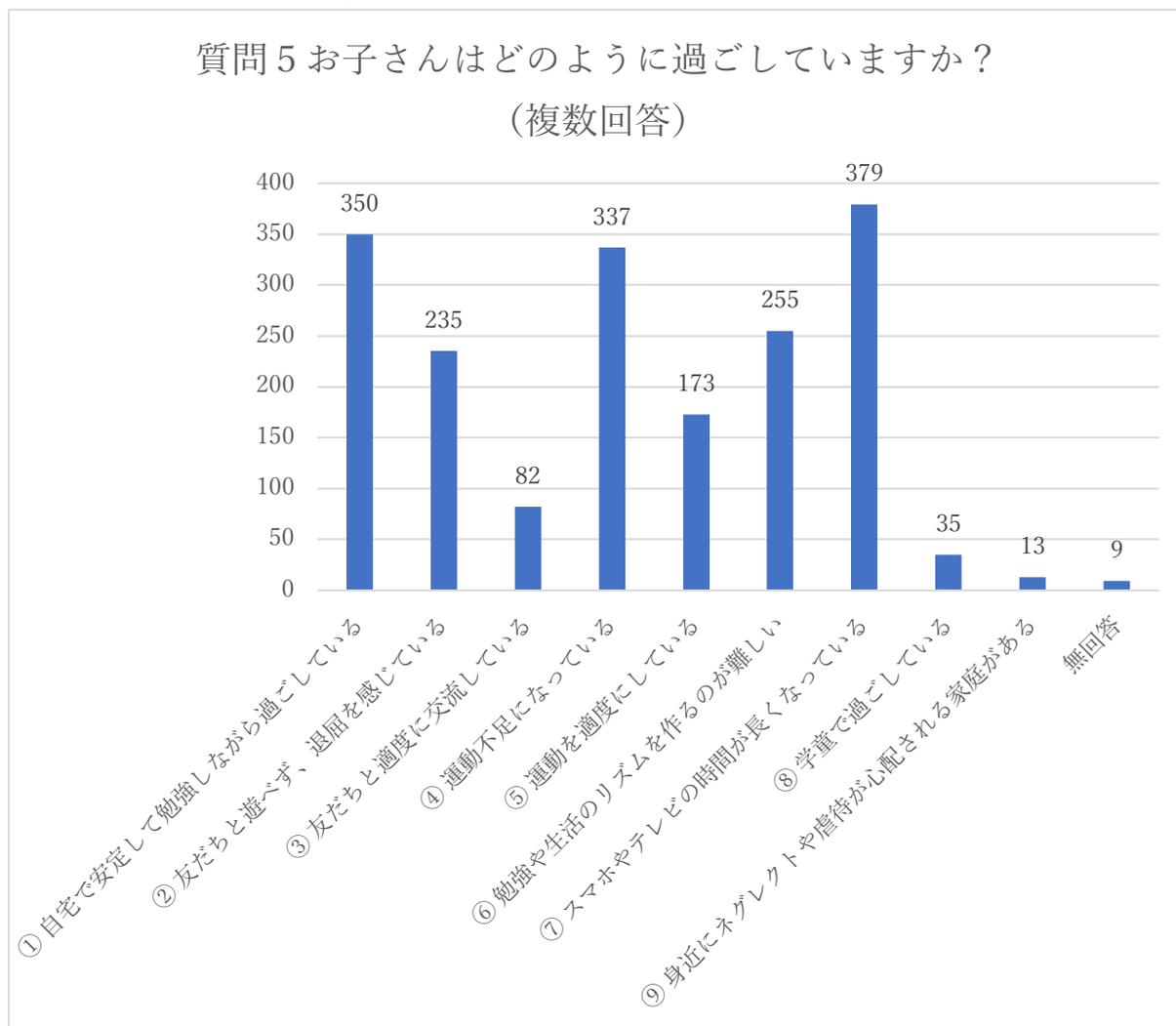
・学校では 1 クラス 40 人だと教室が満員で、ソーシャルディスタンスを取るの難しく、「三密」の密集と密接を回避できない。

- ・登校日も同じ状況になっているので、せめて分散登校にしてほしい。
- ・子どもの手洗いを徹底することは難しい状況です。
- ・教員もマスクをしていなかったり、近距離で談笑していたりして対策が甘いと感じた。
- ・給食の配膳が心配。手で食べる食材も避けて欲しい。
- ・同居家族に高齢者や糖尿病、呼吸器疾患をもつ人がおり、学校からの感染が怖い。
- ・無症状の人からも感染する可能性があるため、学校でも感染リスクは存在する。
- ・学校が再開したら、生活も緩んでしまい、これまで自粛してきた努力が無駄になる。
- ・感染の不安として、雇った時に差別をされることの怖さが大きい。
- ・電車での通学は不安です。

【方針決定の仕方について】

- ・たとえ勉強が遅れても、命を大事にしてほしい。連休後も休校を続けてほしい。
- ・学校の再開や休校を決める時には、専門家の意見を元に説明をしてほしい。県独自の調査もしてほしい。
- ・人の移動が増えるGW明けは、特に感染が増える可能性があるため、5月中は少なくとも休校にするべき。
- ・夏休みに授業をする場合、エアコンがついていない学校もあるし、エアコンが使っても密閉になることは大丈夫だろうか。
- ・学校再開の条件についてまだ自分の中で答えが見つかりません。市中感染がなくなるとはなさそうだけど、ワクチン開発を待つまで再開を待つのは現実的ではないとも思います。

5. お子さんはどのように過ごしていますか？



54%が自宅で安定して勉強しながら過ごすことが出来ている。

59%がスマホやテレビの時間が長くなっている。

52%が運動不足になっている。

35%が勉強や生活のリズムを作るのが難しい。 →質問7に具体的な提案あり

2%が身近にネグレクトや虐待が心配される家庭がある。

【学童保育】

- ・学童は教室よりも密度が高く、危険を感じます。職員も危険に晒され、疲弊しています。
- ・学童が利用できることを理由に、職場が休めない。学童を利用できる職種を限定してもらえたら、職場を休むことができる親も増え、密度も下げられる。

障がいをもつお子さんがいる家庭やひとり親世帯は、特に困っておられ、支援が必要です。

【障がいがある子どもについて】

- ・医療的ケア児は、休校、ショートステイ中止、コロナ不安から訪問看護利用キャンセルで、保護者負担が大きく、アルコールや精製水が手に入りにくい状況です。また、社会的ハイリスク家庭では、ショートス

テイ利用が不可能になり困っています。児相保護も今後難しくなりそうです。(訪問看護をしている保護者から)

- ・自閉症のある子どもと家で過ごしているが、限界を感じる。
- ・多動の子と一緒に過ごしており、とてもしんどい。オンラインで先生や友達と交流できる時間があれば、少し楽になれそう。
- ・発達障がいをもつ子どもが情緒不安になっていて、苦しそうにしている。
- ・放課後デイサービスや生活介護事業所が閉まると心配。
- ・特別支援学校は、宿題が全く出されていない。宿題を出したり、オンラインで先生が(保護者にではなく)子どもに直接関わってほしい。
- ・もし両親が感染した時に、重度の障がいがある子どもは誰が預かってくれるのか？
- ・もし重度障害のある子どもが感染した場合に、どのように入院できるのか？

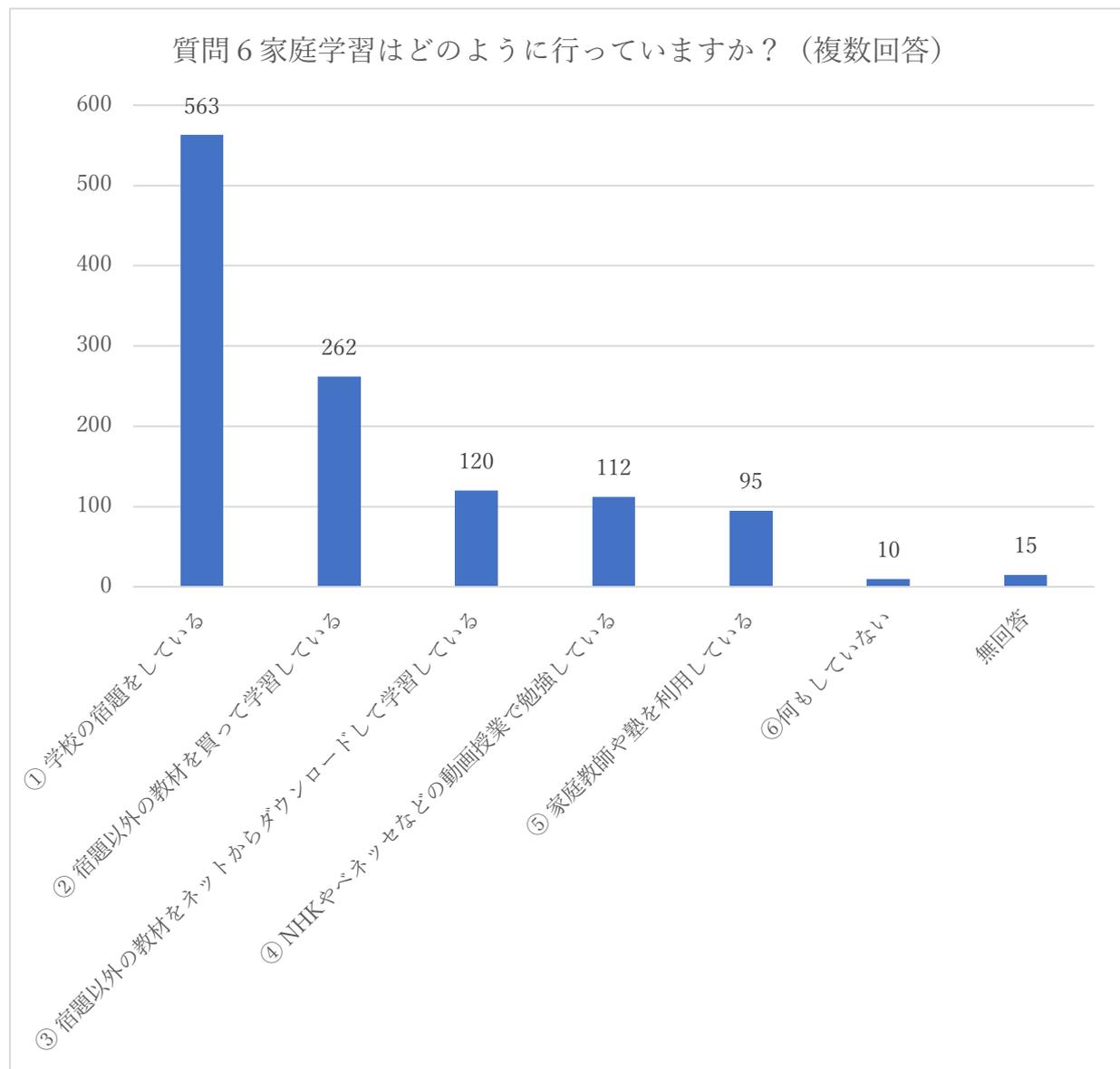
【ひとり親世帯】

- ・ひとり親で他に支援者もいないので、子どもの休校のために仕事を休むしかなく、収入が途絶えて困窮しています。
- ・ひとり親家庭です。一日も早い再開を望みます。このままでは母子ともに倒れます。
- ・母子家庭で仕事も少なくなり、とてもきつい状況。

【その他】

- ・対人コミュニケーション不足が心配。
- ・子どものパブリックスペースが今後どのように変化していくのか注視しています。トライ & エラーを恐れず努力されている先生に感謝している。
- ・子どもが我慢してふんばっているのだから、大人がしっかりしなければ。
- ・図書館をあけて本の貸し出しをしてほしい。
- ・子ども達の声や思いを聞き取る場がないように思います。

6. 家庭学習はどのようにしているか

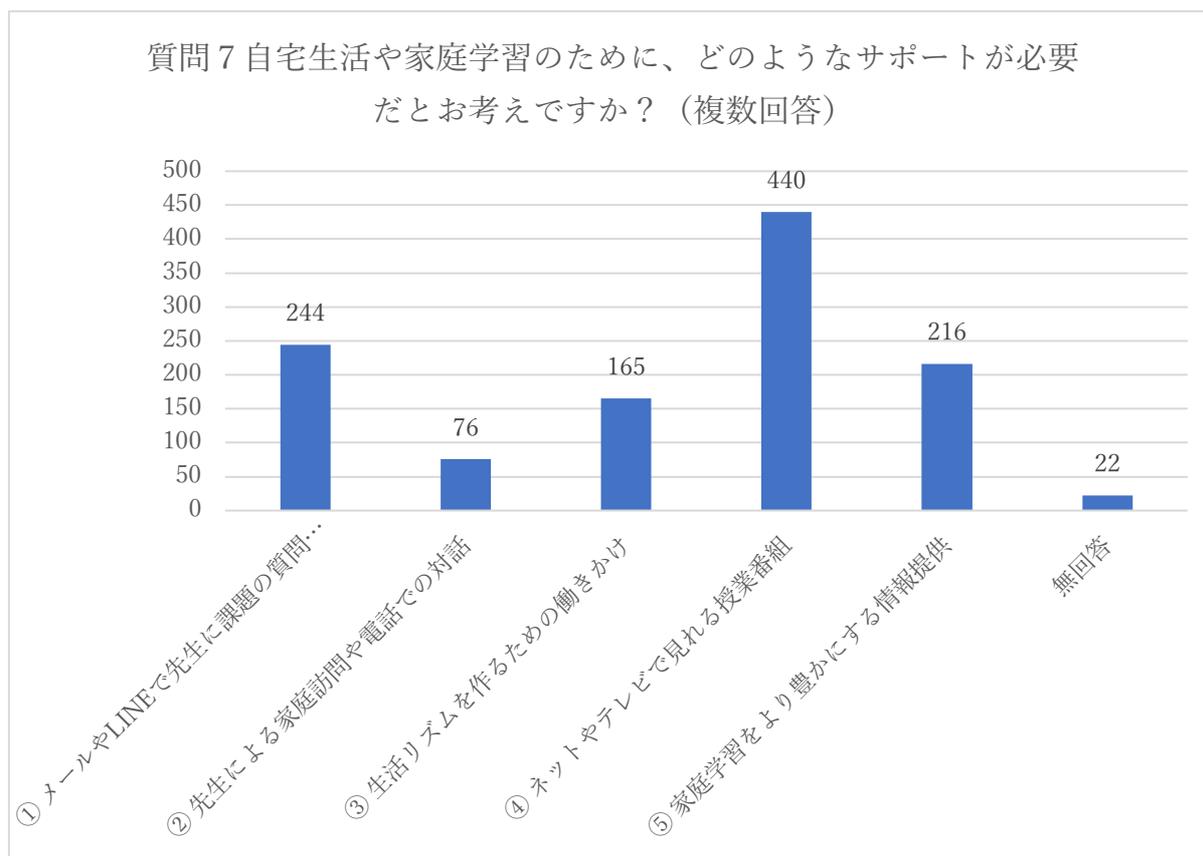


88%が学校の宿題をしている。

④には、私立高校などでオンライン授業を受けている方も含んでいます。

自由記述には、「モチベーションが下がっている」という方も複数いました。

7. 家庭学習への支援



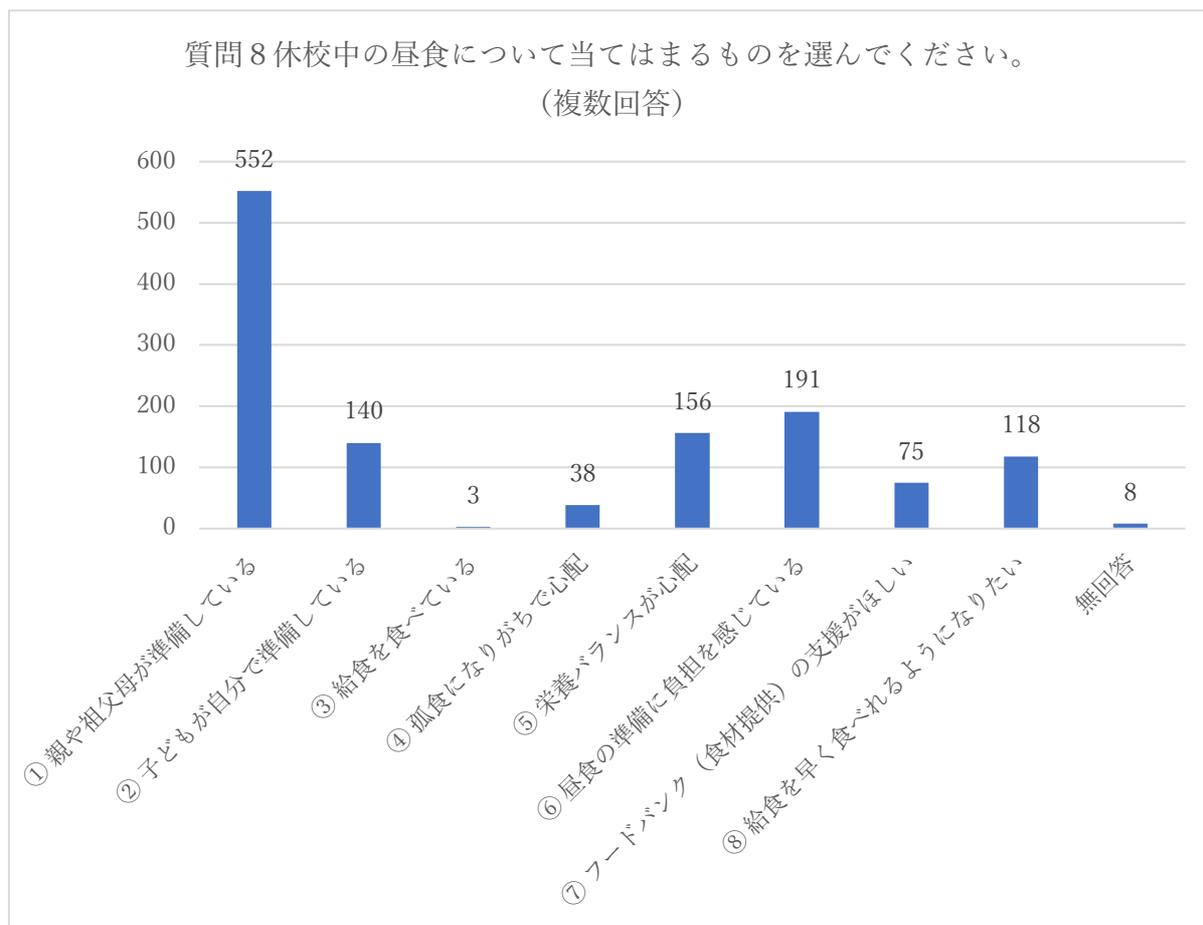
【教材・動画教材】

- ・ドリルや問題集を配ってほしい。
- ・課題の回答や追加の課題をダウンロードできるようにしてほしい。
- ・教科書に沿って使える既存の動画授業などを、紹介してほしい。
- ・家庭学習でどれくらい身につけているのか、進度などを定期的に確認してほしい。

【オンライン授業】

- ・オンライン授業を希望する声がとても多い。
- ・オンライン環境整備や機器購入のために補助をしてほしい(9名)。
- ・オンラインで朝の会をして、その日のスケジュールや課題などを話せるとよい。
- ・友達との交流が少なく寂しい思いをしている。オンラインで同級生と顔をあわせたい。
- ・私立高校ではオンライン授業を行っているところが多い(質問6の④に含まれている)。
- ・高校のオンライン事業の実施状況は、私立と公立で差が大きい。
- ・ある私立高校では、時間割に沿って教師が作成した動画授業をダウンロードして見れるようにしている。生徒と個別アドレスでやり取りしている。
- ・インプットだけでなく、アウトプットで習熟度や疑問の解決をするなどフォローしてほしい。

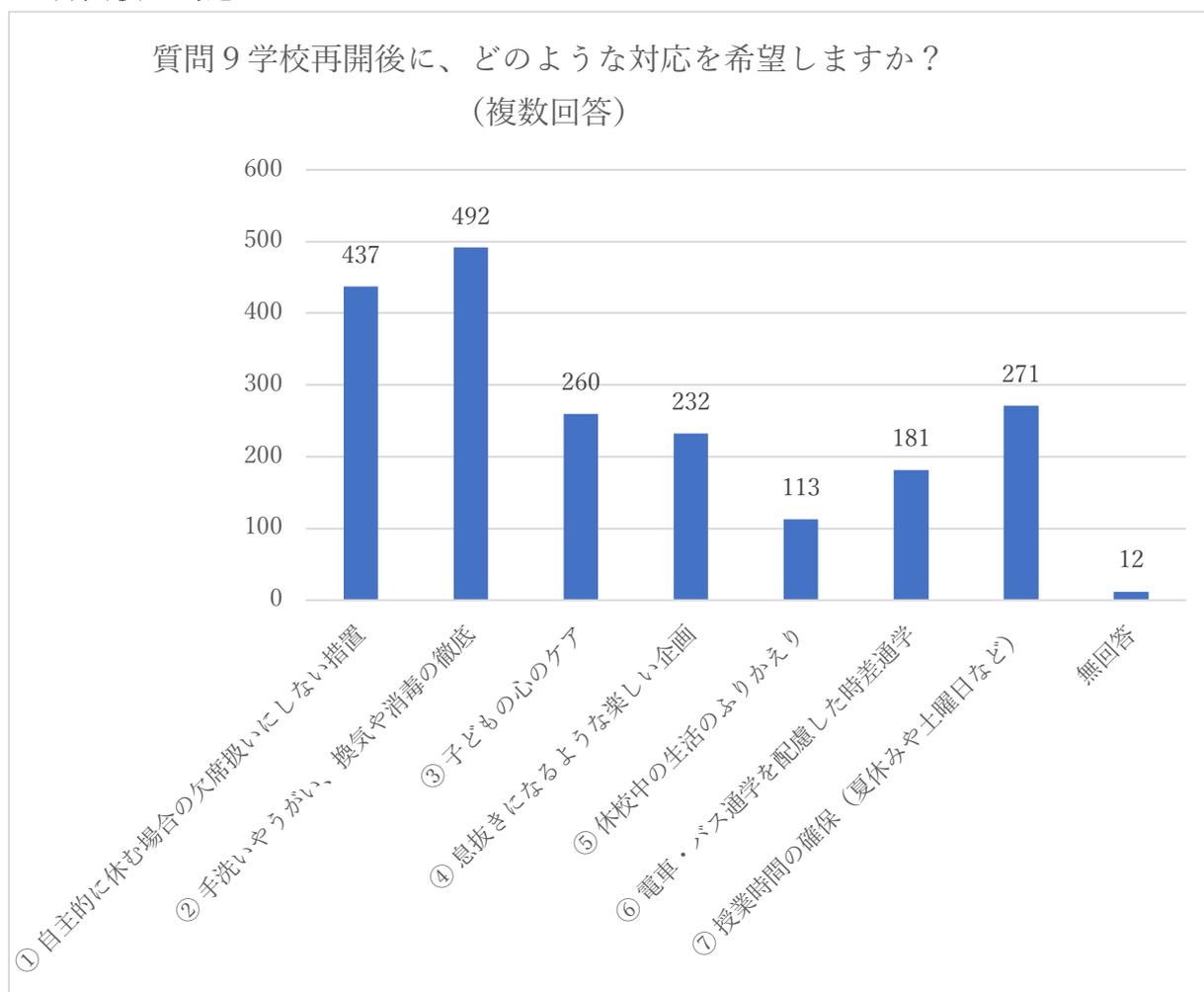
8. 昼食



(自由記述から)

- ・給食がなくなり、食費がかさんでいる。(生活保護で厳しい方も)
- ・栄養バランスが低下している。給食(お弁当)を受け取れるサービスがほしい。
- ・給食用の食材が余っている状況なので、安く販売するなどしてほしい。

9. 再開後の対応



②の内容に加えて、分散登校を望む声が多くあります。1クラス 15～20人でなければソーシャルディスタンス距離は取れないという考えが多くありました。

【自主的な休校】

- ・自主的に休んだ間、担任から全く連絡がなかったので、もう少しフォローしてほしい。
- ・テストも受けれるようにしてほしい。
- ・自主休校は、勉強の遅れや友達関係がとても気になって、選択できても難しい。
- ・自主休校している間は友達に会えず、子どもも辛そうだった。
- ・持病があり自主休校した。

【再開後について】

- ・遅れを取り戻すために、詰め込みが進みそうで心配。ゆるやかに対応してほしい。
- ・運動不足で体力も落ちているので、運動会の練習の仕方を変えて欲しい。
- ・スポーツ大会もすべて中止になり大変残念。成果を見せれる代わりに場を作ってほしい。
- ・学校の消毒は外注に出すべきではないか。保護者のボランティアもできると思う。
- ・検温チェックはオンラインにしてほしい。
- ・持病がある家族の子どもに(感染防止のための)配慮をしてほしい。

実施者: 大塚愛(岡山県議会議員)、鬼木のぞみ(岡山市議会議員)